

第 1 章 大 気 質

第 1 節 序 説

本県における大気汚染は、仙台港、石巻工業港及び仙南地区に立地する工場、事業場から排出されるばい煙や粉じんと、仙台市内など都市部における冬季のビル暖房などによるばい煙並びに自動車排出ガスなどによるものであり、大規模発生源の大半は、仙台湾公害防止計画地域に立地している。

本県においては、大気汚染を防止するため、昭和46年より県内36か所に一般環境大気測定局を設置し、大気中の硫黄酸化物、窒素酸化物などの大気汚染物質の汚染状況について常時監視を行うとともに、大規模発生源に対しては、大気汚染防止法等に基づく規制などに加え、公害防止協定または覚書の締結に基づく排出基準を遵守させるため、テレメータ方式による自主監視を行わせている。また、仙台湾公害防止計画地域においては、硫黄酸化物の排出量を削減するための独自の総量規制方式を導入し、着実な成果をあげている。さらに、昭和51年には、宮城県大気汚染緊急時対策要綱を定め、市町村及び関係機関との連絡体制を確立し、緊急時の対策を図っている。

昭和52年度の大気質の測定結果についてみると、二酸化硫黄については改善の傾向にあり、環境基準の短期的評価では1時間値については環境基準を2局で超えているが、長期的評価では環境基準を満足しており、二酸化窒素については1時間値の1日平均値の98%値が、本県の環境目標値である0.04 ppmを超えている測定局が2局ある。また浮遊粒子状物質については、環境基準の長期的評価による1日平均値0.10 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ をほぼ満足しており、一酸化炭素については、自動車排出ガス測定局7局で測定しているが、1時間値の1日平均値10 ppm、1時間値の8時間平均値20 ppmをそれぞれ全局で満足している。

光化学オキシダントについては、環境基準値の1時間値0.06 ppmを超える日がみられる。

このように、大気質は、概して良好な状況にあるとはいえるが、今後、産業活動の活発化や自動車交通量の増加が予想され、それに伴い大気汚染物質も増大していくものと予測されるので、将来にわたり良好な大気環境を保持していくよう諸般の施策の展開を図る必要がある。

このため、本計画においては、各種発生源、気象などについての基礎調査結果を踏まえ、予測手法を設定して二酸化硫黄、二酸化窒素の環境濃度をメッシュごとに推計するとともに、環境保全水準並びに環境容量を定めてメッシュにおける環境濃度管理を行い、大気汚染を防止するよう